

e-ビーフNEWS 北の牧場から

June 2015

アスパラガス

今、真盛りの収穫物。北海道のグリーンアスパラ人気が高まり、欠品状態が続いています。グリーン以外に元々は缶詰のホワイトが、そのまま生の状態で流通し始めました。グリーンは土の上、ホワイトは、その土から出る前の違いです。新鮮さそのままのチルド流通ができるようになったので広がってきました。食感は、缶詰ホワイトのクニクニ感から、生のホワイトは、ちょっと苦いがポリポリ感へと驚く様に違います。

ところで、天然アスパラが繁茂し始めているのを知っていますか？それも道端。アスパラ特有のほうき草状のモサモサ葉茎が、道路わき垣根帯から飛びぬけて出てきています。はじめ疑っていましたが、脇からグリーンアスパラが出ていました。家内に言わせると「犬のおしっこがかかって、食べれないよ」と言います。まあ、そんないわれで取られないで広がってきたのでしょうか。でも、来年こそ採ってやろうと目星を付けているところです。

十勝は、花盛り、青葉盛り。すべてが新緑で輝いています。畑も一段と忙しくなっています。作付が真っ盛り。じゃがいも、ビート、トウモロコシ、豆と、例年以上に天候がよく早いです。牧草も、そろそろ刈れそうな勢い。でも、ちょっと雨が降らず干ばつ気味。風が強いので、国道を車で走っていると舞い上がった土で煙幕状態です。十勝では珍しく、畑にトラクター駆動式のスプリンクラーが回り始めました。

好景気の影響で、肉牛相場もバブリーな状態。でもコストがしっかり上昇している中で、橋げたを外されないう不安が募ります。



NEWSばか読み

- 農水省 各空港に植物検疫窓口開設 4/28:旅行者増加影響
- 東京食肉市場 牛肉枝肉相場GW需要で一段高年未並み 4/28:本気?
- 豪州産牛肉 セーフガード発動の可能性 4/29:市場ジャブジャブ
- 岐阜大 畜産廃水資源に微生物燃料電池 4/29:畜産物も再生エネに
- 山口県 豚飼養 エコフィード(パン屑)でコスト削減
4/29:おいしい豚肉を
- 財務省 2014年度貿易統計食品輸出5,000億円超し 4/29:
- 野菜 天候不順で品薄感7~8割高値 4/29:今年の天候に不安
- 白老牛 イヤコーン耕畜連携で生産給餌 4/30:自給率高まるな
- 4月和牛市場相場 64万円市場高値続く 4/30:資金繰りがとまるよ
- オゾン増加による稲の減収が深刻
4/30:見えないところで農作物の被害がでる
- 政府 CO2削減目標公表26% 5/1:中身が大切
- 道内の菓子大手 酪農家から直接購入 5/1:業務用産直が浸透
- ミラノ万博開幕 農業の多様性テーマ 5/2:行ってみたい
- 米国 鶏インフルエンザ 2,000万羽超し 5/2:飛び火注意
- 車生産 国内回帰 5/3:製造業の空洞化阻止によい機会
- 道内酪農家 搾乳ロボット導入が加速 5/4:離農阻止のインフラ整備に

- 政府 TPP概要公表 農産物協議には触れず 5/6:肝心なことでしょう
- 大林組 農業参入 首都圏で大規模野菜工場 5/6:企業参入加速
- 世界のCO2 危険水準400ppm突破 5/8:まずいかも
- 米国 Bento人気上昇 弁当箱に注目 5/8:和食とコンパニオン
- E型肝炎患者最多に 豚レバー生食原因か
5/8:牛レバーの方が怪めないよ
- 総務省 14年度エンゲル係数
21年ぶりに高水準 5/8:庶民の生活反映
- 飼料工業会 飼料米需要商系60万t超し
5/9:系統合わせ米生産の2割近付く
- オリオンとコーンズ パイオガス施設販売で協業 5/12:普及に期待
- 日本ワイン 増産機運 5/12:酔いそう
- 農水省 飼料米生産コスト目標10年後半減 5/13:定着してからね
- 気象庁 今年エルニーニョ強まる可能性 5/13:現在真逆現象だけど
- 14年度国際収支 4年ぶりに増加黒字 5/14:円安効果とのバランス
- 台湾 日本の食品輸入規制強化 5/15:逆になってきたぞ
- 食品・日用品目 昨対6割値上がり 5/16:生活に反映
- 大阪府 住民投票 都構想否決 5/18:民意は複雑
- 農地バンク 利用目標2割にとどまる 5/20:実態理解されず
- 4月訪日客 最高の176万人 5/21:東京は外国人に占領されている
- 天塩和牛ブランド確立へ 5/22:特徴は

東京直近NEWS (5/30 Shi-REPORT)

ホルス 5月も引き続き相場は高値安定状態。販売動向はGW明けにやや緩んだ、母の日も終わり末端需要は一服感あり。赤身関係の引き合いも一時よりもやや弱まるも絶対量の不足と高値安定傾向。時期的にバラ系の引き合いが一段と強まり品不足。ロース関係も相変わらず余剰無く高値安定にて評価維持。唯一、カタロースが引合い弱く価格も赤身と同価格帯での流通状況。出荷状況の不足から最低限の手当でも高値相場が維持され、等級や品種に限らず安価な国産手当の希望が強まっている。例年であれば6月は5月に比べ相場やや落ち込むが、今年は高止まりペースではないか。

経産牛 5月に入り、稼働日数の減あり枝相場は高値継続からさらに高騰状況。頭数の減少影響が著しく、肥育牛の不足からも安価な国産原料としての引合いは収まらない。特にパーツ需要が大きく、全部位不足している。グレードがあるも、ノーマル系でのパーツ流通も増加傾向であり、単価も高騰している。が、絶対量の不足から価格でも手当が難しい状況になっている。逆に挽材は天井価格の状況で、末端への値上げが浸透していない状況。牛正肉の動きはやや鈍いも枝肉評価が高騰している為、パーツの値上げだけではさすがに吸収しきれず、牛正肉への価格転嫁も急務。産地加工場も、稼働率あるため多少無理してでも原料確保に努めているが、収益面での不安も多大で、体力勝負の状況にもなり得るのではないかと。

活動のお知らせ

- 5月27日(水) 札幌 北海道酪農畜産協会
北海道肉専用種枝肉共励会実行委員会 第5回 10/22開催
北海道アンガス牛振興協議会 27年度総会開催
- 6月5日(金) 16:00~ 帯広市 カルビーポテト(株)帯広工場 ポテトピール検討会
- 6月6日(土) 10:00~ 帯広グランテラス(旧東急イン) 環境リサイクル肉牛協議会27年度総会&第1回飼養技術研修会
- 9月12日(金) 13(土) 酪農畜産大学 畜産学会 日本産肉研究会主体事業

左先生の畜産学Research NEWS

今年は戦後70年目に当たり、新聞は連日、集団的自衛権行使容認の閣議決定に従った法整備の国会論争を伝えています。8月に出される予定の安倍首相の総理談話に関心が高まっていますが、中国の言う歴史認識と日本国民の理解は必ずしも一致しておらずその結果が時の政権の談話に顕れるとみられるでしょう。これは対中・韓のみならず米国との関係にも影響します。日本人の覚悟や姿勢の問題なのに強い信頼感のある政治ができていません。常にどこかを意識しながらの構造自体が問題なのだと思います。東北大震災で復興計画を議論したある地域で「60才以上は口を出すな」と言って計画を成功させたと聞きますが、今時こういう若者の活力に脱帽です。こういう人にこそ将来の食糧・農業政策を考えて欲しいものです。e-びーふNews18号の学術情報は栄養生理研究会報Vol.59, No1. (2015)の内容と平成27年3月、農水省発表の「畜産の動向」と「畜産をめぐる情勢」です。

1. 5.23家畜栄養生理研究会春季集談会 (於: 日本獣医生命科学大学)
 今年の栄養生理研究会春季集談会は5件の演題で、家禽が2題、実験動物が2題とウシを材料にした1題でした。「ウシを対象とした未利用資源の飼料化に関する研究—特に近畿地方の地場産飼料資源に焦点を当てて—」(熊谷 元ほか:京大)では近畿地方の畜産地とされる京都府南丹地域から集めた食品製造・原料副産物(推定DM4,500tとされる)14点や近畿地方の機能性賦与が期待される試料18点の飼料的化学成分や栄養組成および

機能性などを分析し、乳・肉用牛飼料に発酵TMRを調製して給与試験を実施した。その結果、ポテト加工残渣、麺類規格外品、豆腐粕、醤油粕などは急激な発酵に留意すればTMR素材としての有効性が示され、ワイン副産物は抗酸化機能性が認められ、黒豆収穫残渣は今後の課題の1つと思われました。

ウシ以外を扱った研究は演題名だけに留めます。
 「家禽の味覚受容体に関する研究」(川端二功:九州大)、「ニワトリにおける非酵素的糖化トリプトファンの代謝および生理機能」(牧野良輔:岩手大)、「食生活の改善によるストレス制御に関する研究」(長澤麻央:名城大)、「ラットの泌乳期における摂食調節機構に関する研究」(鈴木喜博:宮崎大)
 2. 畜産の動向(農水省 生産局畜産部畜産企画課:平成27年3月)
 III. 牛肉の需給動向:平成25年度の景気回復により増加した消費が26年に減少し、国内生産は前年肉専用種の岩礁中、乳用種の低下から更に減少しました(部分肉272千t)。輸入は前年外食需要の増大で増し、26年は反動で減少、枝肉の卸売価格は和牛去勢・乳用肥育去勢B2・B3の加重平均で1,414(27年1月)に上昇しました。IV. 配合飼料の価格は26年11月時点で166,102/t。25年以降連続して通常・異常補填の発動です。
 3. 畜産をめぐる情勢(農水省 生産局畜産部:平成27年3月)
 肉用牛の飼養動向:平成26年57,500戸2567,000頭で減少。和牛部分肉生産量162,000t、乳用種108,000t。

道総研 畜産試験場NEWS

第11回 資源循環型牛肉生産シンポジウム2014 飼料米の利活用と肉牛生産 講演要旨 掲載



経営概況

- 飼養頭数 9100頭
- 肥後地区 養牛導入総年一貫政策
- 年間出荷頭数 7300頭
- 平均出荷重量 347kg口
- 出荷月数 12+18月齢
- 日増重量 1.20
- 草給-粗飼料 3.5%
- 配合飼料粗飼料 31%レ
- 6A米サイレージ利用率 120%

水田農家と連携した飼料米利用

- 2009年 稲刈後飼料米の活用を促すため
- 協賛、青年導入生の養育施設の提供により飼料米の活用が促進される
- 協賛から飼料米の購入、2010年より本格利用開始
- 協賛に次ぎる稲刈後の活用が促進されるが飼料米と並行して飼料米の活用が促進される
- 2年連続、生産者の飼料米の活用が促進されるが飼料米と並行して飼料米の活用が促進される
- その他、大規模の稲刈後の活用が促進されるが飼料米と並行して飼料米の活用が促進される



飼料米の活用状況

飼料米の種類	飼料米の活用状況	飼料米の活用状況	飼料米の活用状況
稲WCS
粉砕モミ米サイレージ

飼料米の活用状況

飼料米の種類	飼料米の活用状況	飼料米の活用状況	飼料米の活用状況
稲WCS
粉砕モミ米サイレージ

給与効果

- 生産
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
- 飼養
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
- 飼料
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少
 - 飼料米の活用によりFMRが減少



- 今後の課題と展望
- 飼料米の安定供給
 - フィールドにおける飼料米の給与技術の確立
 - 中長期的に一貫した米政策
 - 北海道における専用種の選定
 - 飼料米給与畜産農家に対する支援

